

失明起こす網膜色素変性症 大

原因遺伝子を発見

阪 大

大阪大の熊ノ郷淳教授や豊福利彦・特任准教授らは30日、失明原因となる網膜色素変性症の原因遺伝子を見つけたと発表した。網膜の細胞の維持に欠かせないたんぱく質の異常で発症していた。新薬開発の足がかりになる成果という。

網膜色素変性症は網膜の視細胞に異常を起こす遺伝性の疾病。糖尿病性網膜症や緑内障と並ぶ失明原因で国内に4000～8000人に1人の割合で患者がいる。根本的な治療法がなく、発症メ

カニズムも不明だった。

研究チームはたんぱく質「Sema4A」を作る遺伝子に注目。この遺伝子のないマウスは視細胞ができない。詳しく調べると、Sema4Aは光などで視細胞が損傷しないように保護する物質を放出したり、損傷した視細胞の物質の再生を促したりする役目を担っていた。

Sema4Aの働きを促す物質などを探索すれば、根本的な治療につながる新薬を開発できる可能性がある。